

Gallery 愛海詩

えみし

◎新型コロナウイルス感染予防ガイドラインに沿って対応させていただきます。

欧州刺繍 高木きらら 作品展 札幌の先駆者初個展

4月27日～5月9日

彩遊の号 No.39

愛海詩の会
会報

令和3年4月20日発行

編集発行人/ギャラリー愛海詩

佐藤 睦子

〒064-0821

札幌市中央区北1条西28丁目2番17号

TEL・FAX/(011)613-1112

WEBSITE

http://www.emishi-s.com

E-mail:kougei@emishi-s.com



創作中の高木きらら氏

プロフィール

- 1950年 北海道生まれ
- 2000年 刺繍・フランス装の「アトリエKirara」主宰
- 2005年 イギリス伝統刺繍を二村恵美氏に師事
フランスアート刺繍を武井佳子氏、フランスオートクチュール刺繍をレンミッコ氏のもとで学ぶ
- 2012年 横浜青葉台教室開催
朝日カルチャースクール(札幌)講師
- 2015年 札幌移住 ヴォーグ学園札幌校講師
- 2017年 DISCOVERonJAPANESE2017inParis出展
- 2018年 国際平和美術展(スイス・ジュネーヴ)出展
- 2019年 JARDIN展(アラブ首長国連邦)出展

令和三年の春に寄せて

生まれわたりの淡黄緑は、どこか初々しく、喜びに満ちています。草木の芽・葉が伸びて行く先に、希望とエネルギーを見つめて、生まれわたりの息吹を感じたく思います。コロナ禍は引き続き予断を許しません。情報が正しく取捨選択して、ご自身を守り、他の人に配慮しつつ、北の街の楽しみも各々に、見つけて下さいますよう。...

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会の「愛海詩」は「愛彌詩」であり、北海道の古称です。「道民を大切にしよう」と創られたギャラリーであり、会です。そしてまた、道民によって育てられていくギャラリーであり、会でもあります。長引くコロナ禍で、作家達も大変な日々を過ごしておられますが、皆さん前向きで、作品に誇りがなく、私自身、救われる思いでありました。「やるべき事を淡々としっかりやるんだ」という気概が各々の作品から伝わってきます。今年出来るだけ北海道の作家と向き合おうと思います。

ギャラリー愛海詩・愛海詩の会の「愛海詩」は「愛彌詩」であり、北海道の古称です。「道民を大切にしよう」と創られたギャラリーであり、会です。そしてまた、道民によって育てられていくギャラリーであり、会でもあります。長引くコロナ禍で、作家達も大変な日々を過ごしておられますが、皆さん前向きで、作品に誇りがなく、私自身、救われる思いでありました。「やるべき事を淡々としっかりやるんだ」という気概が各々の作品から伝わってきます。今年出来るだけ北海道の作家と向き合おうと思います。

その美しい華の一つが手技の作品です。心や生活が豊かになるような作品、ささやかであっても上品の文化の華です。生まれわたりの新しい春、確かな出会いに導かれつつ、楽しんで下さい。北の街に住む私達にはよろこび一入の春です。

(佐藤睦子)

「ご挨拶」作品展に寄せて

初めての作品展を生み育った札幌で生きていくための事を、ギャラリー愛海詩・愛海詩の会の皆様にご感謝申し上げます。このご縁をつなげて下さいましたのは、日本刺繍の川戸藤枝氏でした。良いご縁はつながっていくものとしみじみ思っております。

私が欧州刺繍をするきっかけは、ある雑誌でバイユーのタペストリーというページとの出会いでした。この巾70cm長さ70mの布地に針と糸だけでイギリスの歴史が刻まれているのを目のあたりに魅了されました。(11世紀に創られた品です。)

その後刺繍作家の方々によるこの作品の再現に出会い、ほんの一角でも自分で刺してみたいと思い、本格的に習い始めました。

ちょうどその頃、英国王立刺繍学校を日本人で唯一卒業され、日本で教室を開催された二村恵美先生の門をたたきました。先生の技術の高さを身につけたいと願ってレッスンを続けて参りました。妥協を許さず、とてもきびしい先生でしたが、今の私があるのは、その教えがあったからと本当に感謝して居ります。

又その後すぐにフランスオートクチュール刺繍という聞き慣れない刺繍とも出会い、こちらもやはりフランスで学ばれ日本で初めて教室をはじめられた武井佳子先生のもとにも通わせていただき、イギリスとは全く違った刺繍も学ばせていただきました。技術のイギリス、センスのフランス：とよく言われますが、性格の全く異なる国のエピソード等も先生方と語り合い真剣な中にも楽しく充実した日々を過ごさせていただきました。これで良いという事のない世界ではありますが、こうしてギャラリー愛海詩で皆様にご覧いただけます事を有難く思い、これからも針と糸で思いを紡いでいきたいと励んで参ります。

優雅な心うごく一時を分かち合えたら幸いです。どうぞご覧下さいませ。



ブローチ・チョウ、トンボ、スカラベ (スタンプワーク・立体刺繍)
スカラベのサイズ：たて2cm・横4.5cm

帽子や袖などにさりげなくつけておしゃれを楽しんで下さい。細やかなビーズやスパンコール等の糸の運びが、光を集め、放ち、輝きます。



ブローチ・バラ (オートクチュール刺繍)
赤いバラ サイズ：たて7cm・横10cm

バラがもつ邪気をはらう美しさ、高貴さが小さな作品ですが、伝わって来るようです。洋服に合わせて各々の色を楽しめます。愛らしく凛とした女性と出合っほしい作品です。



額・ヒロシマ (オートクチュール刺繍)
サイズ：たて75cm・横45cm

平和の大切さを祈るような思いで、一針ずつ進めて行った作品です。2018年に国際平和美術展(スイス・ジュネーヴ)に出展されました。私は工房で初めてこの作品と出合った時、思わず立ち竦んでしまいました。敬虔な思いを抱いた慈愛に満ちた作品です。



額 (バイユーのタペストリーより)
サイズ：横62cm・たて35cm

フランスに現存する11世紀に創られた歴史的資料としても価値が高い70mもある一大絵巻物の一部分。高木きらら氏が刺繍作家を目指すきっかけとなったタペストリーの再現です。

英国王立刺繍学校

145年の歴史と世界最高の刺繍教育

芸術としての手刺繍の伝統技術を保存継承し、良家の子女の雇用機会を創出するために1872年に創立されました。当時、アーツ&クラフツ・ムーブメントの中心的存在であったウィリアム・モリスとの交流も深く、今日もお初心者からエキスパート向けまで、あらゆるレベルの方に門戸を開いております。

また注文製作を請け負う部門では、エリザベス皇太后や1953年のエリザベス女王の戴冠式で着用されたローブのゴールドワーク刺繍、キャサリン妃のウェディング・ドレスの刺繍を始めとする王室関連の刺繍製作、教会や博物館に所蔵される刺繍の修復など伝統的な刺繍に加え、常に時代に即した新しい刺繍も創造し続けています。

学校はヘンリー8世とイングリッシュガーデンで名高い風光明媚なハンプトン・コート宮殿の一角に位置しており、60000点を超えるテキスタイルや関連文書の所蔵コレクションを備えております。

イギリス伝統刺繍

イギリス伝統刺繍の中には、ゴールドワーク・スタンプワーク(立体刺繍)・キャンパスワーク・シャドウワーク・ブラックワーク・ジャコビアンワーク等様々な技法があります。中でもゴールドワークはメタルワークとも呼ばれ、金銀のメタル糸を使用し現在でも戴冠式にはおるローブあるいは冠にもこの刺繍が施されております。

フランスオートクチュール刺繍

木枠にピンと張ったオーガージーに細い針を使ってビーズやスパンコールを刺していく「リュネビル刺繍」。フランスのオートクチュール刺繍には欠かせない技法のひとつです。流れるような曲線と自由な素材で奏でる音楽のような刺繍の方法です。

ギャラリー愛海詩 オープン時間

- 11時30分～18時・木曜日 13時～18時・月曜日 定休日
- 状況の変化により、上記のオープン時間等、急に変更せざるを得なくなる場合がございます。
- お越し下さる時などギャラリー愛海詩にご一報下されば幸いです。連絡先はこの会報の右上にございます。



バッグ (ゴールドワーク・オートクチュール)
サイズ：横33cm・たて22cm・マチ13cm

英国刺繍の粋を凝らした作品で、アブダビのJARDIN展の出品作品です。上の写真、下の写真で表裏一体となります。世界の和合を願い込め誦上げているような作品です。



バッグ (スタンプワーク・立体刺繍)
サイズ：たて17cm・横25cm・マチ8cm

深いブルーの生布に心躍るモチーフ、女性を守るスタンプワークが優しく織られています。

お誘い・高木きらら氏を囲む会

5月8日(土)、9日(日)の午後2時から午後3時30分まで。

高木氏のレクチャーとお手製の素敵な作品もプレゼント致します。参加費は4500円、各日共、先着5名様で、ギャラリー愛海詩までご予約下さい。どなたでも参加できる有意義な会です。

欧州刺繍作家、高木きらら氏の初めての作品展を出来ることろうれしく、その出会いに感謝です。これほどの方が何故今まで作品展をされなかったのが不思議でもありました。その技とセンスを見つけた時の喜びは、今でも覚えております。それは、ひっそりと息を潜めるように咲く春蘭の花を見つけた時のような喜びと申しませうか。...

額、バッグ、小箱、針箱、ブローチなど、約五十点を展示します。高木きらら氏の技とセンス、そして気の遠くなるような時間をかけた逸品揃いです。一つ一つの作品がその美しさを見せてくれます。

札幌で、正統な欧州刺繍を見られるこの好機、沢山の皆さまに拝見していただきたく思います。そして、二十年以上も自然体で欧州刺繍を創り、教え続けるチャーマニングな女性、高木きらら氏にも出会って下さい。